

学校掃除で育成される力とその課題

大竹 美登利

(東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター)

藤原 玲子

(株式会社ダスキン 暮らしの快適化生活研究所)

1. はじめに

掃除が教育の一環として位置づけられ、小中高等学校で児童生徒が掃除を担当していることは日本独自の学校教育での特徴である。学校掃除の国際比較研究を行った沖原(1978)は、アジア仏教圏は児童生徒が掃除を担当することを特徴とし、日本では神道のみそぎやはらいの催事や仏道修行と深く関係し、寺子屋時代から掃除が子ども達の教育と深く結びつき、1958年の学習指導要領に整理整頓や清潔が取り上げられていることを述べている。

現行の「小学校学習指導要領」でも学校掃除が明記され、掃除が学校教育の中に明確に位置付けられている¹。掃除が教科の中で取り上げられているのは家庭科であるが、家庭科の義務教育での授業時間数は、小学校6年間で115単位時間、中学校3年間で87.5単位時間と少ないうえ、衣・食・住・児童・家族・消費・環境などを学習の一部で取り扱うため、掃除学習に当てられる時間は数時間にすぎない。現在の学校掃除は、毎日に15～20分程度の掃除時間が設定されていることが多く、1日15分週5日間取り組まれたとすると、小学校6年間で360時間と、家庭科1教科の約3.1倍と、学習指導としては十分な時間が確保されている。しかし学習指導がこの時間で有効になされているとは言いがたい。

こうした学校掃除については、問題行動の改善という観点からの生徒指導の一環として掃除教育を位置づけるもの(江寄 2008、吉村 2012)、集団活動に焦点をあて集団指導の側面から捉えたもの(古籟 1959)、自治活動の可能性(名古屋 2013)や教師の成長に結びつける研究(平田 2014)などが行われている。本研究では掃除活動で児童生徒が身につける知識・技術や資質能力について、指導計画を立てて学習することで育まれる力量を把握し、効果的な学習方法を追究することを目的とした。

2. 調査方法

2.1 調査対象校と検証内容

表1に示すように、2つの小学校で、それぞれの掃除指導計画をたて、約1年にわたり掃除指導を実施し、児童のアンケート調査等での回答と教師からの報告や聞き取りなどのデータから、その効果を検証した。

調査対象校は関西と関東から1校ずつ選定した。大阪府公立A小学校と東京都公立B小学校である。A小学校は全校児童13クラス314名であり、掃除活動は学年を混合した縦割り班で行っており、今回は全校で取り組んだ。B小学校は各学年2～3クラス編成、全校13クラスのうち研究活動に参加したのは教師歴1年目、2年目の教員8名8クラス、児童数

¹ 平成20年(2008年)3月告示の現行「小学校学習指導要領」では、〔学級活動〕〔共通事項〕「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」に「エ清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」と明記され、その解説(平成20年(2008年)8月))では「日々の学級や学校の生活を維持するため、児童に清掃をはじめ当番活動に取り組ませている学校が多い」と記されている。

276名である。クラス単位での清掃活動が主流だが、週1回、学年を混ぜた縦割り清掃や、1年生と6年生とのペア掃除の取り組みもしていた。

本研究計画にそって掃除教育に取り組んだ期間は、両校とも2009年5月から2010年3月である。

分析に用いたデータは、児童に対しては清掃後の「チェックシート」、学期毎の掃除に関する「アンケート調査」に加え、掃除の様子をビデオで撮影したものを使用した。教員のデータとしては、月毎の「定期レポート」と学期毎の振り返り会の意見を使用した。

表1 調査方法

| | | 大阪府吹田市立A小学校 | 東京都小金井市立B小学校 |
|-------|----|-----------------|-----------------|
| 対象クラス | | 全校のクラス | 教師歴1・2年目の教員のクラス |
| | | 1年生(2クラス) | 1年生(1クラス) |
| | | 2年生(2クラス) | 2年生(2クラス) |
| | | 3年生(3クラス) | 3年生(1クラス) |
| | | 4年生(2クラス) | 4年生(2クラス) |
| | | 5年生(2クラス) | 5年生(1クラス) |
| | | 6年生(2クラス) | 6年生(1クラス) |
| 対象児童数 | | 314名 | 276名 |
| 掃除方法 | | 縦割り班による清掃 | クラス毎の班による清掃 |
| 調査期間 | | 2009年5月~2010年3月 | 2009年5月~2010年3月 |
| 調査内容 | 児童 | 掃除後のチェックシート | |
| | | 学期毎のアンケート調査 | |
| | | 掃除の様子のビデオ撮影 | |
| | 教員 | 月毎の定期レポート | |
| | | 学期毎の振り返り会の意見 | |

2.2 年間の取り組み

今回の掃除活動の年間の取り組みを表2に示した。

表2 年間の取り組み状況

| | 大阪府吹田市立A小学校 | | 東京都小金井市立B小学校 | |
|-----|----------------------|---------------|----------------------|-------------|
| | 教員対象とした取り組み | 児童対象とした取り組み | 教員対象とした取り組み | 児童対象とした取り組み |
| 5月 | オープンセミナー(ビデオ教材などの確認) | | オープンセミナー(ビデオ教材などの確認) | |
| | 指導目標の設定 | 掃除に関するアンケート | 指導目標の設定 | 掃除に関するアンケート |
| | 定期レポート提出 | | | |
| | | | | |
| 6月 | 掃除セミナー | | 定期レポート提出 | |
| 7月 | 振り返り会 | 出前授業 | 振り返り会 | |
| 8月 | | | 掃除セミナー | |
| 9月 | 定期レポート提出 | | 定期レポート提出 | |
| 11月 | 定期レポート提出 | | 定期レポート提出 | |
| 12月 | 振り返り会 | 掃除に関するアンケート(児 | 振り返り会 | 掃除に関するアンケート |
| 1月 | 定期レポート提出 | | 定期レポート提出 | 出前授業 |
| 2月 | | 掃除に関するアンケート | | 掃除に関するアンケート |
| 3月 | 定期レポート提出 | | 定期レポート提出 | |
| | 振り返り会 | | 振り返り会 | |

2.3 教員を対象とした取り組み

教員を対象とした取り組みとして、「オープンセミナー」「掃除セミナー」「定期レポート」の提出、振り返り会を実施した。

2.3.1 「オープンセミナー」

オープンセミナーは本研究の目的や取り組み内容などを説明するセミナーであり、両校とも5月に1時間程度行った。ここでは、小学生向け掃除方法学習ビデオ教材を視聴し、掃除の目的や方法を確認し、クラスの本年度の掃除活動の指導目標を設定してもらった。

2.3.2 「掃除セミナー」

「掃除セミナー」は掃除指導の方法と実習を中心とする3時間程度のセミナーである。初めに、実践を交えてホウキやチリトリの使い方、雑巾の絞り方、拭き方といった掃除方法を知らせた。その後5～6人の班に分かれて1つの教室を掃除してもらった。その際こちらから掃除方法を示すのではなく、グループの教員同士が話し合っ掃除指導の方法や工夫の着眼点を確認してもらった。その後年間指導計画を作成した。A小学校では6月に実施したが、B小学校では日程が取れず、8月の校内研修会で行った。したがってB小学校では、「オープンセミナー」時に掃除方法に関する複数の「ビデオ教材」を渡し、自主学習をしてもらった。

2.3.3 年間指導目標の設定

年間指導目標は表3に示した通りで、各教員に設定してもらった。A小学校は縦割り掃除に取り組んでいることから学校全体で統一したものが設定され、B小学校はクラス毎の取り組みであるため各クラスで相違している。両校とも、1学期～2学期前半にかけては「掃除用具を正しく使う」「正しい掃除手順を知る」といった掃除の基礎・基本知識を習得することを目標にし、2学期後半から3学期にかけては「みんなで協力して時間内に掃除をする」「もっときれいにする方法を考える」「正しい掃除の仕方を下級生に伝える」などの発展した内容を目標としていた。

表3 年間の指導目標

| | 大阪府吹田市立A小学校 (全校取り組み・たてわり清掃) | 東京都小金井市立B小学校 (選定クラス・クラス清掃) |
|-----|--------------------------------|-------------------------------|
| 5月 | ・掃除用具を正しく使おう | <5年生対象クラスの例> |
| 6月 | | ・どうして掃除をするのか考えよう |
| 7月 | | ・掃除用具を正しく使おう |
| 9月 | ・正しい掃除の手順を知ろう | ・正しい掃除の手順を知ろう |
| 10月 | | |
| 11月 | ・みんなで協力して時間内に掃除をしよう | ・どうして掃除をするのか考えよう |
| 12月 | | |
| 1月 | ・正しい掃除の仕方を下級生(友達)に伝えよう | ・もっときれいにする方法を考えて実践しよう |
| 2月 | | |
| 3月 | | |

2.3.4 「定期レポート」の提出ならびに振り返りの会

「定期レポート」は①掃除活動の目標、②目標に向けての指導内容、③目標カードの運用方法、④児童の掃除への取り組み状況、⑤印象に残った掃除に関する児童の発言や行動、⑥今月の活動を振り返ってなどを担当教員が記入し、月1回程度のペースで計5回提出してもらい、教師の視点から見た掃除指導の取り組み状況を把握した。

また、各学期の最後に教員による「振り返り会」を行い、それぞれの掃除指導の取り組みの到達点、課題などについて意見交換を行い、それを踏まえ今後の指導方法を確認した。

2.4 児童を対象とした取り組み

2.4.1 「出前授業」の実施

児童に対しては「出前授業」を実施し、掃除の基本的な方法を学習した。

「出前授業」は45分1単位時間で行った。内容は、まず「掃除をする意義」について学び、次に「正しい掃除用具の使い方」として、その学校で使用している掃除用具のホウキ・ちりとり・ぞうきの使い方について実践的な学習を行った。出前授業は取り組み開始時に行くことを予定し、A 小学校では7月に実施したが、B 小学校では様々な事情で時間が確保できず、終了間際の1月に実施することになった。ただしB 小学校では出前授業で取り組む内容を収録した「ビデオ教材」を、特別活動の授業などで教師指導の下で視聴した。

2.4.2 自己評価（チェックシート）

自己評価する「チェックシート」を週1回児童に記入してもらい、掃除の取り組み状況を確認した。「チェックシート」の質問項目は、こちらから提示した内容例を各学校や各学年に合わせて教員がアレンジし、各学年やクラスの状況に合わせたものを作成した。

2校共通に使用したものは、「そうじに必要な用具をそろえることができる」「どこにどんな汚れがあるか確認している」「何人かで協力して進めることができる」「自分の担当が終われば、他の人のお手伝いをすることができる」「使った用具は清潔にし、元の場所に片づけている」「そうじ用具を整理整頓することができる」「そうじの手順を他の人に説明することができる」「ホウキを正しく持ち、きれいにはくことができる」「ゴミやホコリをできるだけまい上げずにはくことができる」「ゴミやホコリを一定方向にはき進めることができる」「チリトリを持つ人にゴミがかからないように静かにゴミを入れている」「取り終えたごみは、ゴミ入れに捨てている」の12項目である。

これらの項目について、児童に、達成状況にしたがって○△×を記入してもらい、○3点、△2点、×1点の3段階で尺度化し、平均値を算出した。

2.4.3 掃除に関する「アンケート調査」

学期毎に児童を対象に掃除に関する「アンケート調査」を行い、掃除の基礎・基本知識の習得状況を確認した。「アンケート調査」の内容は、①自分の掃除の取り組み状況、②掃除について友達に教えてあげられること、③できるようになったこと、④役に立っていること、⑤掃除の楽しさなどであり、低学年と高学年で一部言い回しを違った。

3. 児童を対象とした調査の結果

3.1 自己評価「チェックシート」にみる達成度の変化

各クラスの「チェックシート」活用の取り組みが順調に行われ始めた10月と、年度最後の取り組みであった3月の「チェックシート」の尺度平均値の結果を表5に示した。

10月と3月の間で有意に増加している項目は12項目中9項目であった（表4）。その中でも尺度平均値が10月にすでに2.8以上と高く、3月の最終時に平均は2.9を越え、ほとんどの児童が「習得した」と答えていた項目は、「そうじに必要な用具をそろえることができる」「ホウキを正しく持ち、きれいにはくことができる」といった基礎・基本的な用具の使い方に関するものであった。用具の使い方の習得という指導目標は両校とも夏休み前に設定されており、それが達成されていることが確認できた。また、こうした基礎的・基本的

な掃除用具の使い方は比較的早く、またほぼ全員が習得できたといえよう。

一方、「自分の担当が終われば、他の人のお手伝いをする事ができる」「そうじの手順を他の人に説明することができる」といった、手順や他人との協力などの項目では、10月の尺度平均値が2.6以下と低くなっていた。両校ともこれらの教育目標は9～10月に設定されており、取り組みは始まったばかりで10月にはまだ定着されていないといえる。しかし3月にはそれぞれ0.2ポイント、0.26ポイントと、他の項目と比較して大きく数値が増加しており、指導目標を立てて取り組んだ効果が上がっていることが確認された。これらの項目に関する力は、個別的な知識や方法を習得するに留まらず、いくつかの知識や技術に関連させ組み合わせていく統合力や、一つ一つの知識や技術の関わりを意識しながら全体の進行状況を見通し次のものにつなげていく段取り力といったメタ認知と関連した力である。こうしたメタ認知力の育成は現在社会で強く求められる力量である。10月には尺度値が低かったが3月には大きく伸びていることから、毎日の掃除の繰り返しの中で、こうした力が確実に身につくことが確認できた。

表4 掃除後のチェックシートの尺度平均値

| チェック項目 | 10月 | 3月 | t検定 |
|---------------------------------|------|------|-----|
| そうじに必要な用具をそろえることができる | 2.91 | 2.96 | ** |
| ほうきを正しく持ち、きれいにはくことができる | 2.83 | 2.94 | ** |
| チリトリを持つ人にゴミがかからないように静かにゴミを入れている | 2.77 | 2.93 | *** |
| ゴミやホコリをできるだけまい上げずにはくことができる | 2.76 | 2.88 | ** |
| そうじ用具を整理整頓することができる | 2.73 | 2.88 | *** |
| 何人かで協力して進めることができる | 2.73 | 2.84 | ** |
| どこにどんな汚れがあるか確認している | 2.68 | 2.84 | *** |
| 自分の担当が終われば、他の人のお手伝いをする事ができる | 2.57 | 2.77 | *** |
| そうじの手順を他の人に説明することができる | 2.27 | 2.53 | *** |

p<0.01 *p<0.001

3.2 児童対象の掃除に関する「アンケート調査」結果

3.2.1 掃除方法の習得状況

児童対象の掃除に関する「アンケート調査」では、「掃除方法の習得状況」を「お友だちや下級生に教えてあげられることは何ですか」と、自分ができるだけでなく他に教えられる程度にまで確実に習得できているかどうかというレベルで把握することとした。

ここでは最終の調査である3学期に実施した結果を図1に示す。他の人に教えられると回答した児童の割合が両校ともに50%を超えた項目は、「ほうきの使い方」「机のふき方」「黒板のふき方」であり、用具の使い方は大半の人が習得していた。「チェックシート」で用具の使い方が身に付いていることが明らかになったが、「アンケート調査」の結果も同様に、児童自身もそのことを自覚していることを確認できた。

一方で、他の人に教えられると回答した割合が30%以下であったのは、A小学校では「そうじの手順」「床のふきかた」「そうじをする方が良いのはなぜか」、B小学校では「そうじの手順」「そうじをする方が良いのはなぜか」であった。これは「チェックシート」で10月には身につけているものが少なく、3月で大きく伸びた内容と一致する。繰り返し経験する中で身につく内容ではあるが、それを人に伝えられるには複雑な内容であり、またそこまでは定着していないことから、「教えられる」との回答する児童の割合が少なくなったと考えられる。

学校掃除で育成される力とその課題

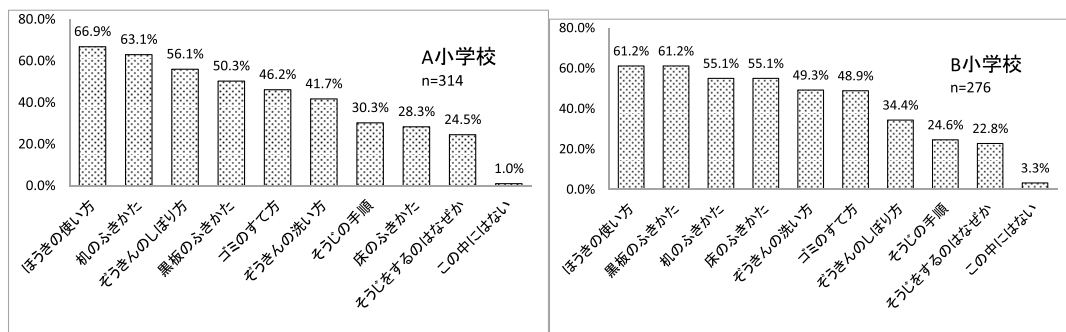


図1 お掃除のことで友だちや下級生に教えてあげられることは何ですか？（複数回答）

3.2.2 掃除の仕方の勉強で役立ったこと

掃除の仕方について勉強したことで役立った項目に複数回答で選択してもらったところ、図2に示すA小学校では「出前授業」が54.8%、「掃除のビデオ」46.5%、「先生の指導」が41.4%で、この3つの項目に4割以上の児童が○をつけていた。B小学校は「掃除のビデオ」は44.6%と4割以上であったが、「出前授業」（28.3%）、「先生の指導」（23.6%）は3割以下と少なかった。

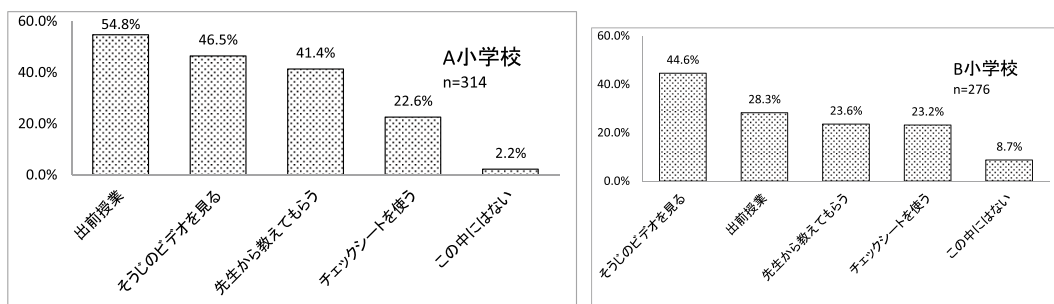


図2 お掃除の仕方について勉強したことで、役に立ったと思ったことは何ですか？（複数回答）

A小学校ではこの取り組みのスタート時に児童を対象とした「出前授業」、教員を対象とした「掃除セミナー」を行って、教員も児童もそうじの仕方を習得し、それをベースに教員がポイントを児童に指導したり、再度ビデオで確認したりでき、これらの教材や取り組みがうまく生かされたものと考えられる。一方B小学校では、「掃除のビデオ」が最も高くなっており、「出前授業」や「先生の指導」が必ずしも高くなっていなかった。これは、B小学校では取り組みのスタート時に「出前授業」「掃除セミナー」が行えず、「出前授業」は終了間際の1月に、「教員セミナー」は8月に実施され、それらに代わって「ビデオ教材」で学ぶことになったことを反映している結果である。「出前授業」「教員セミナー」がスタート時に行えなかったことから、それらが取り組みに充分生かされなかったものといえ、両者を年度の初めに行う重要性が確認できた。

3.2.3 掃除は楽しいか

「お掃除は楽しいですか」と尋ねたところ、「楽しい」と回答した児童は、A小学校では1学期44.6%から3学期47.1%、B小学校でも28.3%から30.8%へ微増していた。一方、「まあ楽しい」と回答した児童は、A小学校は31.5%から36.3%へ増加したのに対し、B小

学校は 39.3%から 32.6%へ減少した。同様に「どちらかというとなんて楽しくない」「楽しくない」という否定的な回答も、A 小学校では減少し、B 小学校では増加していた。

「掃除方法の習得状況」は A 小学校の方が B 小学校より高い傾向にあり、また掃除方法の習得で役に立ったことの回答から、A 小学校は「出前授業」や「ビデオ教材」「先生の指導」が好循環にうまく生かされていたことが分かったが、それが児童の掃除方法の習得に反映され掃除技術の定着に結びつき、そのことで児童は楽しさが感じられるように変化していったものと受け取れる。A 小学校の児童の自由記述欄に、「他のクラスの先生に褒められるから、楽しい」と回答していたことから、楽しさを感じ、前向きに取り組めるような指導方法が鍵になるといえる。

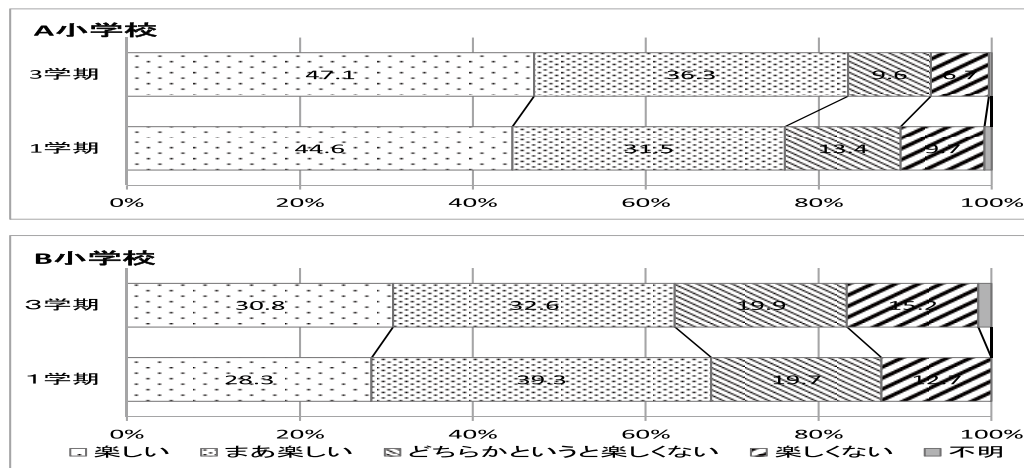


図3 お掃除は楽しいか

3.3 掃除時間のビデオ映像による取り組みの相違

このプログラムにそって指導を始める前の1学期の5月と、取り組み後の3学期の2月に、同じ場所で同じ児童が掃除を行っている様子をビデオで撮影し、取り組み状況の相違を比較した。図5は動画の1場面を示している。5月では掃除用具（自在ほうき）を1方向でなく多方向に動かしておりゴミが一カ所に集まっていなかったが、2月には1方向に動かしゴミが確実に集まっていた。またほこりやゴミを床の目にそって掃き出したり、すのこをあげてその下にあるゴミを掃くなど、ゴミを確実に集めて清掃する方法に変化していたことが確認できた。すなわち、1年間の取り組みによって効率よく理にかなった掃除方法に変化し、また皆で協力して行うことができるように変化していたことが確認できた。

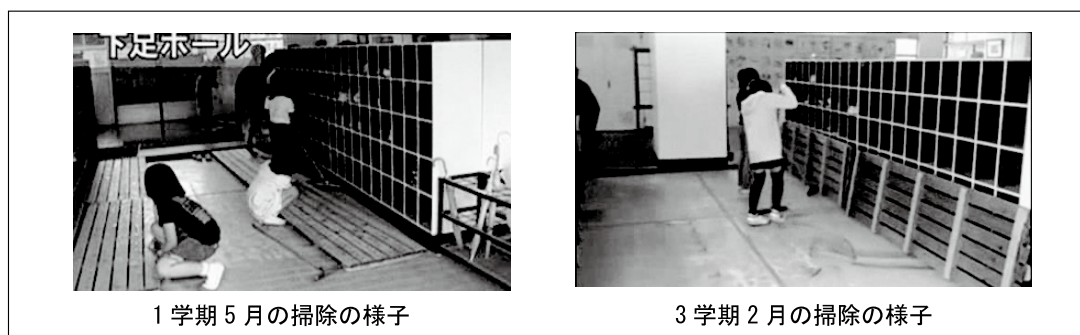


図4 掃除の取り組みの変化

4. 教員を対象とした「定期レポート」調査の結果

4.1 児童の掃除に対する取り組み状況の評価

「定期レポート」では、「掃除手順を守る」「掃除用具を正しく使おうと心がける」「決められた場所を効率よく掃除する」など児童の取り組みの状況に関する 6 項目について、「非常にそう思う」「そう思う」「そう思わない」までの 3 つの選択肢の中から 1 つを回答してもらい、「非常にそう思う」を 5 点、「そう思う」を 3 点、「そう思わない」を 1 点として、尺度平均値を算出した。

「掃除用具を正しく使おうと心がける」の尺度平均値は、A 小学校では 5～6 月の 2.53 から 3 月に 4.65 へ、B 小学校でも 2.89 から 4.33 へ増加し、危険率 0.1%水準で有意な差があった。同様に、「掃除手順を守る」「決められた場所を効率よく掃除する」「ゴミや汚れをみつけてから掃除にとりかかる」「苦手なことを進んで引き受ける」「役割分担による責任感や人へのおもいやり」の 5 項目も、両校とも 5～6 月から 3 月へ有意に増加した。なかでも「苦手なことをすすんで引き受ける」「役割分担による責任感や人への思いやり」は 5～6 月では 2.0 近くあるいはそれ以下と低かったが、3 月には 4.0 を超えているものも多く、増加幅が大きくなっており、自覚的や責任感などは、1 年間の長期にわたる取り組みで大きく成長することが明らかとなった。

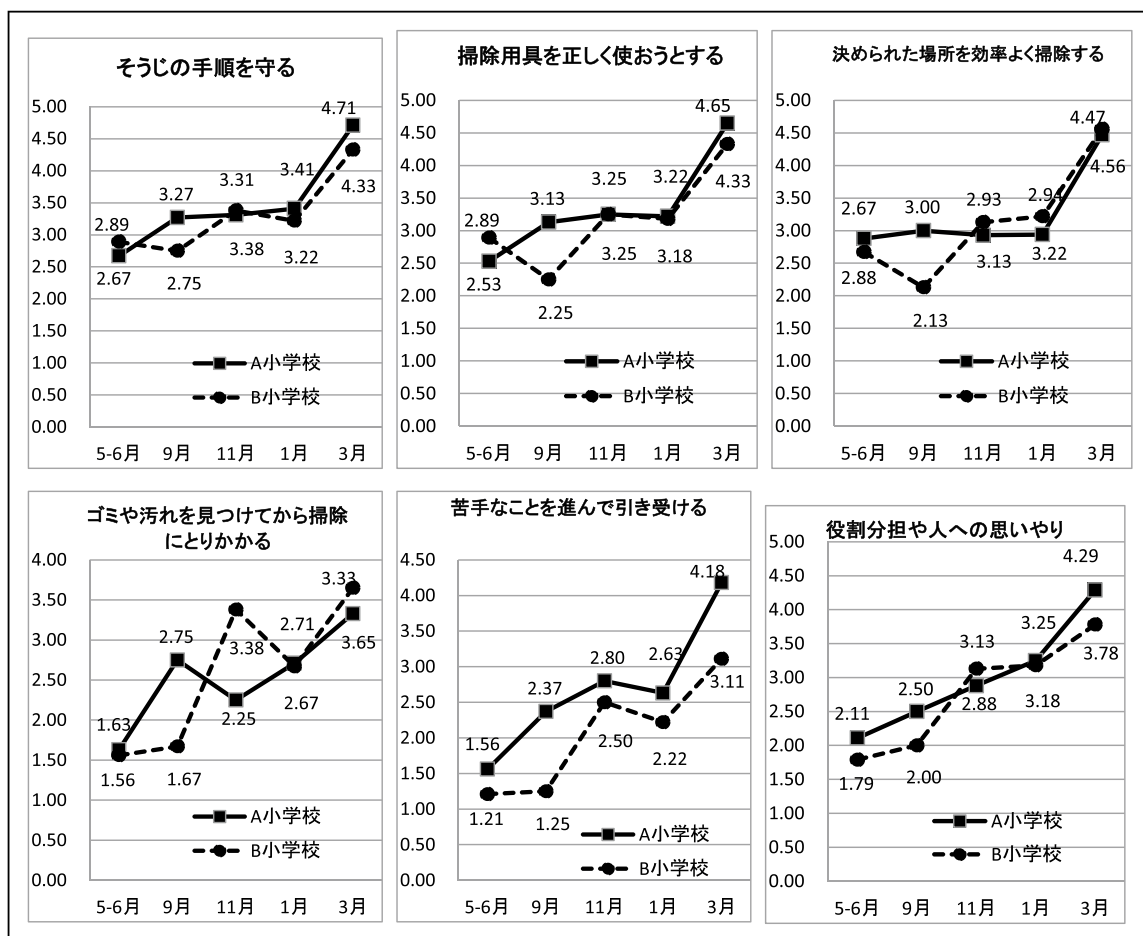


図 5 児童の掃除に対する取り組み状況の評価

4.2 年間指導計画と「チェックシート」への教員の評価

掃除に関する指導目標や年間計画を立てることに対する教員の評価を尋ねたところ、両校とも全教員が「大変効果があった」「効果があった」と肯定的な回答をしていた。全校で縦割り清掃を取り組んだ A 小学校では、「どの学年、どの組の子が来ても指示がとおりやすくなり、教師も同じ視点で指導できた」「2～3 カ月毎の大きな目標にしたことで、指導のめあてがはっきりし、全教員の掃除指導への意識統一もはかれた」「教員自身も掃除に対する意識を高めることができた」という意見があり、学校全体としての年間指導計画を決めたことに対する評価が高くなっていた。

一方、掃除後の児童の自己評価である「チェックシート」記入に関しては、必ずしも教員の評価は高くなかった。両校ともに 70%以上の教員が「効果があった」と回答し、「子どものがんばったことなどが記録に残り、達成感を味わえる」「指導する観点が明確になったと思う」といった意見があったが、一方で約 25%の教員は「あまり効果はなかった」と答え、「項目内容が低学年には難しい」「どの時間につけさせるかが問題だ」との意見もあった。「チェックシート」は事例を元に教員が作成したが、めあてを作成して掃除指導した経験がこれまでなく「チェックシート」に盛り込む内容が児童の実態に適合し精選されたものになっていなかったこと、また 15 分という短い掃除時間の最後に「チェックシート」を記入させる難しさなど、問題が残った。今後は「チェックシート」の内容の検討や活用の方法を改善していく必要があるといえる。

表5 年間指導計画、「チェックシート」への教員の評価

| | | | 大変効果があった | 効果があった | あまり効果がなかった | 効果がなかった |
|---------------|------|-----|----------|--------|------------|---------|
| 指導計画を立てることの効果 | A小学校 | 13人 | 31% | 69% | 0% | 0% |
| | B小学校 | 8人 | 0% | 100% | 0% | 0% |
| チェックシートの効果 | A小学校 | 13人 | 6% | 67% | 27% | 0% |
| | B小学校 | 8人 | 0% | 75% | 25% | 0% |

5. まとめ

日本では、学校掃除は毎日児童が行うことが多く、他国ではこうした取り組みは少なく日本の特徴となっている。しかし教科学習とは相違し、方法や意義について教員が専門的な知識を背景に指導目標を立てた指導をすることは少ない。せっかく時間が保証されている掃除活動であることから、計画的な指導のもとで児童の学びを保障していきたいと考える。そこで、大阪府の公立 A 小学校、東京都の公立 B 小学校の教員に、年間指導計画を立て、「出前授業」や「チェックシート」などを活用して約 1 年間掃除指導に取り組んでもらい、児童の習得状況を把握した。

その結果、まず第 1 は、スタート時に児童へ 1 時間の時間を取って「出前授業」として指導し、また教師に対しても「掃除セミナー」を実施し、掃除指導の基本を確認することが、その後の取り組みや掃除方法の習得に重要であることがわかった。すなわち、取り組みの初めに「出前授業」「掃除セミナー」を行った A 小学校では、掃除知識の定着で役に立ったこととして、児童は「出前授業」「掃除の仕方のビデオ視聴」「教師の指導」をあげており、さらに A 小学校の児童は B 小学校と比較して掃除の仕方の習得状況も高かったことから、これらの重要性が確認できた。

第 2 に、毎日の短時間の取り組みであっても年間指導計画を立てることが、効果的な掃除指導に大きな役割を果たすことが明らかとなった。教員は年間指導計画を立てることを

高く評価していたことに加え、用具の使い方を指導目標としていた 1 学期では、その目標が達成できたことが「チェックシート」や「児童アンケート」から確認できた。また、1 学期では習得状況が低かった掃除の手順や協力は、2 学期の指導目標に掲げられた後、年度末にはそれらできるようになった児童が多くなったことも確認できた。

第 3 に、1 年間の継続した取り組みの中で、それぞれの掃除の手順や協力して掃除を行うことで、今日求められるメタ認知力を向上することが明らかとなった。ビデオ映像から、1 学期は効率的な手順や協力ができていなかったが、3 学期にはそれができるようになったことが確認できたこと、さらに「児童アンケート」からも、基礎的基本的な知識や技術に加え、手順なども下級生に教えてあげられる自信がついた児童も多くなっていた。

6. 課題と謝辞

今回は取り組みを行った 2 校の比較によって検証したが、この取り組みの効果を検証するには取り組みを行った学校と行っていない学校との比較検証が必要であろう。また、「チェックシート」の効果の検証は、児童の実態にそい時間的負担の少ないものにして再度確認する必要がある。さらに今回は、教員に対する「掃除セミナー」や児童に対する「出前授業」など様々な内容を盛り込んだ取り組みであったが、これらの何が効果的なのかは、それぞれの個別の取り組みを比較できるような研究計画が求められる。今後はこれらの課題に対応する研究を進めていきたいと考える。

なお、ご多忙な中、学校全体で掃除指導に取り組み調査にご協力いただきました 2 つの小学校の校長はじめ多くの教員の皆様に心より感謝申し上げます。

文献

- 江寄和子（2008）「トイレ掃除や美化活動を通して育てる子どもの心とからだ—京都市掃除に学ぶ便きょう会の活動」『月刊生徒指導』学事出版、38（10）、28-32
- 沖原豊（1978）『学校掃除—その人間形成的役割—』学事出版
- 名古屋祥吾（2013）「学校掃除にみる自治活動の可能性」『教育学会誌』大東文化大学教育学会、37、78-110
- 平田治（2013）「学校掃除『自問清掃』実践者の教師成長：＜自己成長感＞の連関的形成」『教師学研究：日本教師学会誌』12、11-20
- 古籾安好（1959）「当番と掃除—作業集団の指導—特集・集団指導の心理」『児童心理』金子書房、13（2）、188-192
- 吉村良太（2012）「掃除指導の五つの原則（特集 保護者にひびく基本的生活習慣の指導）」『月刊生徒指導』学事出版、42（5）、25-27